

NPO☆Kyoken通信



新年号

☆特定非営利活動法人教育研究所(問題行動研究会事務局)96号 平成22年1月18日発行

〒233-0013横浜市港南区丸山台2-26-20 TEL:045-848-3761/FAX:045-848-3742

URL: <http://kyoken.org/>

E-mail: contact@kyoken.org

新年明けましておめでとうございます。

今年も皆様方にとって幸せな年でありますように、心からお祈り致しております。

昨年は派遣切り支援から始まり、行政刷新会議の「事業仕分け」で、若者自立塾は正式に昨年12月25日付で廃止が決定して1年間が終了しました。

若者自立塾は5年間で幕を閉じましたが、約2,800人のニートが自立塾に参加しました。自立塾に来た若者の半数が不登校経験者であり、全体の3割の人が軽度発達傷がい者でした。そして、ほとんどの人がひきこもり状態でした。その約6割が社会復帰して行きました。勿論、この種の事業でありがちな傷害事件や監禁事件は起こらず、殺人事件なんて皆無でした。これはこの事業に最後まで関わった28団体の誇るべき成果であったと思います。今まで、長く、不登校やひきこもり支援をしてきた私から見れば、これほど、この分野で成果を上げた事業はありませんでした。これはひきこもりやニートの人たちに不足しているコミュニケーションスキルや社会的スキルが共同生活を通して育った証拠だからだと思います。通所型のサポート・ステーションや不登校の児童生徒向けの適応指導教室ではなかなか上手く行ってないことからいえることです。全国の若者自立塾に関わったスタッフの皆さん本当に御苦労さまでした。

若者自立塾の活動は今年度の3月末で活動は終了しますが、「緊急人材育成・就職支援基金訓練 社会的事業者訓練コース 合宿型」(合宿型自立支援プログラム)として生まれ変わることが、年末に決定しました。

(文責 牟田武生)

Kyoken通信ヘッドライン

- ◎ 若者自立塾から合宿型自立支援プログラムへ
- ◎ 5年間の若者自立塾の活動を振り返って
- ◎ 新しく始まる緊急人材育成募集について
- ◎ 「書き下ろし新連載7」…牟田武生
- ◎ 1月以降の講演会&グループカウンセリングのお知らせ

若者自立塾から合宿型自立支援プログラムへ

～若者自立塾に変わる新たな事業～

若者自立塾は昨年の事業仕分けで「廃止」が決定した。全国にある28箇所の若者自立塾は今年3月末で使命が終る。「ひきこもりやニートは社会の屑だ。ゴミのような人間に我々の血税が使われ、それを利権とする団体に注ぎ込まれること自体おかしい」と、現場を充分に見ないでものを言う意見がマスコミの正論となり、バッシングが続いた5年間だった。そして、あの事業仕分けを行った委員の誰もが、ニートやひきこもり当事者の声も聞かず、事業実施者から現状を聞くこともなかった。

みんな好きでニートになったわけではない。自己責任として、本人が全て悪いとする意見は現状を理解することができない無能者の意見だ。現在の雇用環境や人間関係のスキルを十分に身に付けることが出来ないプチホテル化した核家族の増加や地域社会の子どもを育てる教育力の低下が、コミュニケーション力を含め、子どもや若者の社会性を低下した最大の原因だ。それが、ひきこもり、ニートの背景にある。それは空気読めない(KY)という流行語にもなり、今の若者を蝕み始めている。

ひきこもりやニートの人のカウンセリングを通して、感じることは、不況と雇用環境の激変で「正社員として働く職場がない」「過ぎて正社員として働いていたが、サービス残業を含め、月200時間近くあり、体を壊し、休職後、解雇され、その後、就職先が見つからなかった」という意見も聞く。「両親は、長年会社の仕事やノルマ達成に常に追われ、中年になってリストラされ、うつになった姿を見ると、両親と同じような生き方はしたくない。でも、何をやったら良いかわからない」という意見も聞く。

今の若者は、働き蜂、エコノミックアニマル、と呼ばれた時代の働き方を望んでいない。会社の利益をあげ、将来、出世するための働き方よりも、社会貢献できる仕事として、農業、林業、水産、環境保全、介護、福祉等も、含めた地域の活性化に取り組める職を望む声がある。しかし、残念ながら、それらの仕事を担う若者を育成していた職業科(工業高校・農業高校・商業高校・水産高校)は、総合高校、普通高校に変わってしまった。

若者自立塾は廃止された。でも、平成22年4月、新たな形で生まれ変わる。

緊急人材育成支援事業(基金訓練)社会事業者等訓練コース 合宿型(合宿型自立支援プログラム)が正式名である。緊急予算処置が終る23年3月までの短命だが、成果を上げ、次の恒久的な予算へバトンタッチしていくことが困難を抱える若者支援になる。

新たな事業は大きく2つの大きな特色がある。

1つ

月、約9万円かかった自己負担金が入塾の歯止めになった。今回からは、生活費は昨年夏から実施している「緊急人材育成支援事業(基金訓練)」スキームを使い、個人負担が原則かからなくなった。(最長24ヶ月)訓練費は勿論無料である。

2つ

生活訓練、労働体験+基礎技能習得の訓練、社会的事業分野等のOJTは就職に向けた実践的なプログラムになる。

噛み砕ければ、会社員等の一般的な仕事だけではなくNPOを含め非営利活動で働く者、社会企業家を育てるプログラムにもなる。これは新たな事業創出とともに地域社会の活性化の人的活力になる可能性がある。廃止された若者自立塾より、社会的にみて、すぐれたものになった。考案した厚生労働省職業能力開発局キャリア形成支援室長の施策能力の高さには頭が下がる思いだ。これには、厚生労働省の山井政務官を含め、若者自立塾のかすかな光を消してはならないという情熱がこのプランに結びついたのだろう。

全国の実践施設はこの思いを真摯に受け止め、日本のため、若者のため、1年間、必死の思いで頑張らなければならぬ。それが日本を住みやすい国にしていく一つの原動力にもなるはずだ。

(牟田武生平成22年1月9日ブログより一部改)

～5年間の若者自立塾の活動を振り返って～

宇奈月若者自立塾 寮長 牟田光生

自立塾事業を振り返り…

若者自立塾事業は正式に終焉を向え…

今後は合宿型自立支援プログラムに移行された形になります。

細かい所は1月8日の全国連絡会議で決まりましたが、現行の体制は終焉を向えます。

思えば…

富山に来て4年と少し、様々な事がありました。

宇奈月塾も卒塾生120名を超え、少しずつ歴史が出来始めた矢先でした。

一昨年（以降19年）は、なかなか塾生も集まらず…理事長も癌で倒れ…私的にも非常にツキが無い空回りばかりの一年でした… が！昨年（21年）は派遣切りの人達の「年末年始緊急受入れの宿」をやり、その人達の就労相談会を単独で開き、塾生も19年の約3倍入塾し、理事長の体調も落ち着き、新たに公共職業訓練である「橋渡し訓練」を行い、さあ！これから！と言う時に…

若者自立塾事業が事業仕分けによって簡単に廃止に追い込まれてしまいました。

この無念…

派遣切りの受入れもその人達の就労相談会も言うなれば国の仕事です。

昨年よりも雇用情勢が悪くなる現状で、公共職業訓練「橋渡し訓練」を行い社会復帰出来る人たちを少しでも増やそうと試みていた最中の出来事でした。

今後は！？

結果としては「若者自立塾事業」から「合宿型自立支援プログラム」に変わっていきますが、どういう形で行うかによって、ひきこもり、ニートの人達にとって、非常にハードルは高くなります。

公共職業訓練の手引きである「ワークガイダンス」（職業訓練時におけるビジネスマナー講座の教科書と考えて下さい）は、やはり、25歳以上の求職者用のものであって、比較的長い期間の職業経験があり、他人とのコミュニケーションスキルが、ある程度高いレベルの人達用です。それを要求される部分があります。

これは非常にキツイ…

このコミュニケーションスキルに、難があり、引っ込み思案で、考え込んでしまう（フリーズする）と動けなくなってしまうのがニート・ひきこもり層であり、その層を「ワークガイダンス」がこなせるレベルまで引き上げなくてはならないのが、今後の自立支援（合宿型）の役割であると考えています。

私たちの宇奈月若者自立支援寮（仮称）は、もう一步踏み出し、社会（就職）から目を逸らさないようにし、その層を「ワークガイダンス」がこなせるレベルまで引き上げ、（ココまでで3ヶ月～6ヶ月かかった）さらに公共職業訓練（「ワークガイダンス」と職場実習）を利用した形で社会復帰を考えています。

それらを今年4月から同時に行わなければならなくなった。
まだ私たちは全国に先駆け、昨年、秋より、第一歩を踏み出していたからよかったのかもしれない。
しかし、これから対応していく他の自立塾は大変だろうと思う。
私たち教育研究所が第一歩踏み出していたから、まだ多少の余裕があるし厳しさも知っている。
不幸中の幸いで、あったのかもしれない。

新たにプログラムの見直しをしながら、4月から、また、新しいスタートを切りたいと考えている。
ただ、この5年振り返ってみて、自立塾全体はファジーな部分がありながらも、塾生達を上手く対応してきたと思う。なぜならこの5年間で総利用者約2800名いて、一人も自殺・他殺・大きな事件が起きていないのは各団体が、独自のノウハウを活かし、非常に誠心誠意やった結果ではないかと思う。

そして、「利益を考えるより、今、苦しんでいる若者の為に、何とかしなければ！！」という非常に強い気持ちがあったのではないかとと思う。

そうでなくてネットで叩かれている団体も確かに存在する。

しかし！

私たちNPO教育研究所は！

気持ちの部分でも！

先見の明でも！

他の塾には負けずに日々を頑張っております。

どうか皆さま方今年もどうぞヨロシクお願い申し上げます。

うなづき寮 牟田 光生

新しく始まる緊急人材育成募集について

厚生労働省、職業開発局による、今後のスケジュールについて

2月上旬（予定）合宿型を織り込んだ基金訓練認定基準公表

実施機関（施設側）ごとに所定の様式により申請書作成→（独）雇用・能力開発機構都道府県センターに提出

→（最短のケースで）2月下旬～受講者募集開始、応募、受講勧奨

4月上旬から新スキュームによる訓練開始となります。

※ 詳しくは追ってホームページに記載予定です。また、パンフレットも骨組が出来次第配布致します。

—書き下ろし—

新連載（7） 牟田武生

不登校の大衆化は何を意味するのだろうか。

不登校の子らは病気ではない。不登校が長引き、ひきこもりが長期化すると、様々な精神症状が起きることもあるが、ひきこもりの状態だけでは精神疾患があると考えるのは早計である。

不登校になる中学生が3%を超え、社会問題を通り過ぎ、日常的なものになってしまった。最近では不登校は報道もされなくなってしまった。しかし、現状を見る限り、改善どころか、不登校からひきこもり、ニート、社会不適応者に移行し、深刻さは増すばかりである。

様々な問題の原点でもある不登校問題をもっと真剣に考えるべきなのだが、不登校を取り上げても新鮮さがなく、新聞やテレビはニュース性がなく視聴率を稼げないらしい。しかし、実は不登校の影にあるものは、前述だけでなく、発達障害、いじめ、非行の問題もある。つまり、不登校は明確な理由がなく、年間30日以上、欠席している状態像であるが、その状態像にもっと着目しないと、全ての問題は後送りになってしまう。

様々な問題は早期発見、早期対応の筈なのだが、不登校になると、なぜか、スクールカウンセラーは「もうしばらく様子を見ましょう」で終わってしまい。見守っている間に、あつという間に長期化してしまう。

政権交代によって、民主党が与党になった。民主党は不登校やいじめについてどのように考えているのだろうか。民主党2009マニフェストで「いじめや不登校」に関して、2子育て・教育を見ると、それらに関して、何一つ、出てこない。子ども手当を代表とする票田獲得の「ばら撒き」ばかりが目立つ。

http://www.dpj.or.jp/special/manifesto2009/pdf/manifesto_2009.pdf

政策集2009ではどうであろうか。関連するのは、文部科学省にスクールカウンセラーおよびガイダンスカウンセラー制度の充実とある。

その中に次のような文がある「いじめや不登校などの問題、進学、職業選択などの進路については児童・生徒が相談できる仕組みを充実させる必要があります」とある。

<http://www.dpj.or.jp/policy/manifesto/seisaku2009/img/INDEX2009.pdf>

スクールカウンセラーが置かれ始めた平成4年頃からいじめは横ばい、不登校に至っては、全児童生徒数は減少しているのにかかわらず、小学生で1.5倍、中学生で2.0倍に達している。（学校基本調査より）

深刻な問題なのである。カウンセリングだけではどうにもならない現実がある。だから、社会問題なのである。さらに、不登校はひきこもり、ニートに関連するから、さらに深刻なのだ。でも、民主党にはその認識がなく、これからの日本の未来を背負う、子どもの社会問題を解決していこうという姿勢は全くみられない。

今回の選挙で、民主党に一票を投じた。私には残念で仕方がない。

社会問題を解決してこそ「人を大切にする」の民主党なのではないか。

終わり

- NESその1、平成21年11月11日、行政刷新会議事業仕分けによって若者自立塾は廃止が決定し、平成22年3月末で全ての自立塾はなくなります。
- NESその2、平成21年12月25日、新スキュームによる若者自立支援が平成22年4月から始まります。
- NESその3、年末、話題を集めたキャバクラ嬢の組合「キャバクラユニオン」の結成に教研OGの布施えり子さんがフリーター全般労組共同代表として活躍しています。
- NESその4、高卒認定程度試験を受験した。宇奈月若者自立塾の若者は4名、年内合格者3名、秋に初めて受験し、S君が残り1科目になりました。凄い実績です。予備校では上げられない実績です。

◎ 講演会のお知らせ (平成22年1月～3月予定)

1月から3月まで全体のテーマを「逆風強し！負けるな若者」という演題で迫ります。会員は無料です。

2月7日(日) 13時から17時	富山	富山県民会館 501号室 演題「不登校・ひきこもり 個々の事例にお答えします」 (質疑応答を中心に) 講師 牟田 武生
2月27日(土) 18時から21時	横浜	京急線上大岡駅前ウイリング横浜 12F121号室 演題「不登校・ひきこもり 個々の事例にお答えします」 (質疑応答を中心に) 講師 牟田 武生
3月7日(日) 13時から17時	富山	富山県民会館 707号室 演題「新たな若者自立支援について」 講師 牟田 光生
3月26日(金) 18時から21時	横浜	京急線上大岡駅前ウイリングウイリング横浜 5F503号室 演題「新たな若者自立支援について」 講師 牟田 光生

◎ グループカウンセリングのお知らせ

宇奈月グループカウンセリングを実施します。
グループカウンセリングは、7名前後の参加者とカウンセラーが行なう小集団のカウンセリングです。
今回は三回シリーズになります。
日程、参加申し込みは下記の通りです。

◎ 日程

・富山宇奈月 (AHE ビルカウンセリングルーム)

一回目	二回目	三回目
2月7日(日)	3月7日(日)	4月4日(日)

- ※ 時間はいずれも午前9:30~11:30です
- ※ 都合により日程など変更する場合がありますのでご了承下さい
- ※ 今回横浜でのグループカウンセリングは行いませんのでご了承下さい。

—グループカウンセリング申込書—

参加希望の方はF a xまたはメールでお申込み下さい

参加者氏名	
住所	〒
TEL	
Email	

※ グループカウンセリング費用 ¥9,000 (¥3,000×3回) 会員の方は特典があります

F A X 045-848-3742

メール contact@kyoken.org

NPO法人教育研究所の会員の申し込みについてのご連絡

従来、会員の皆様には会費を年会費として一律5,000円お支払いいただいておりますが、平成21年1月から、1口5,000円としてお申し込みをいただいております。

会員の皆様から、温かいご支援を頂き教育研究所も一時の危機的な状況を乗り越えることが出来ました。

昨年度は牟田先生が長期療養後現場に復帰され、教育研究所、宇奈月若者自立塾の運営もすこしずつ安定して参りました。ただ、皆様ご承知のように「若者自立塾」が昨年12月に廃止決定が決まり、今後の教育研究所の経営、運営にとって大きな打撃となりました。今後の運営についてはまだ予断は出来ない状況です。教育研究所の運営のなかで、会員の方の「年会費」は大きな支えとなります。運営の母体となる年会費を皆様にご協力していただけるよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

会員の特典も新しく追加しておりますのでご検討いただければ幸いです。

- 会員の有効期間は、1年間の有効期間となります。
 - 平成21年4月以降会員になられた方には今年度の4月以降発行の通信でご案内申し上げます。今回お申し込みいただいても構いません。
 - 同封の郵便局振替用紙でお申し込みください。
 - 年会費は1口からの募集です。
 - ※ 1口¥5,000
 - ※ 銀行ご利用の場合は下記の口座にお支払いください。その場合は、必ずご自身のお名前を入れてください。よろしくお願い致します。
- 年会費納入口座は 北陸銀行 宇奈月支店 (ホクリクギンコウ ウナヅキシテン)
名義 特定非営利活動法人教育研究所 (普) 5014010

会員の方には、

- カウンセリング料の割引 1万5千円→1万円
 - 年5回程度の定期通信の発行
 - 講演会などのイベントのお知らせ
 - お母さんたちのミニ図書館の利用
 - ・ 新特典
 - グループカウンセリングの割引(1口につき1回無料)
 - ※ グループカウンセリングは年3回、横浜・宇奈月で実施します。
 - 教育研究所温泉宿泊施設 (AEHビル) をご家族で利用できます。
 - ※ 1口につき二名まで一泊無料 (朝食含む) となります。(ただし、4月から11月まで)
-

新規入会申込書 (新しく会員になる方は郵送かFAXまたはメールでご連絡ください)

(郵便振替でお申込みいただく方は必要ありません)

入会者氏名	
住所	〒

郵送先 〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20

Fax 045-848-3742

2010年「特定非営利活動法人教育研究所うなづきの活動案内」

・ 宿泊型フリースクール・・・

・ ネット依存・・・ネット依存に陥ってしまった若者に現実社会の豊かさを学び、ネットに対して自己規制出来るようになるためには、共同生活の効果が非常に高いということが分かってきました。ネット依存の日本初めての本格的な治療コースです。プログラムは治療から学校及び社会復帰まで含まれています。状態に応じて3ヶ月コースと6ヶ月コースがあります。

費用、寮費、教育費、カウンセリング。月150,000円（ケースワーク費用は別途になります）

【定員 10名】

・ 短期体験合宿・・・5泊6日の体験コースです。基本的には各コースの入塾のための体験合宿です。（年4回程度）35,000円、 【定員 6名】

※ 厚生労働省の入塾体験費用が適応できます。（詳しくは事務局にお問い合わせください）

・ 自立塾OBのフォローワーク

コース	内容	寮費（1ヶ月）
A	カウンセリング&ケースワーク+生活指導+就労体験+就職支援（全てを含むケア）	145,000円
B	就職活動&アルバイトの世話、ケースワークなど	100,000円
C	寮からの正規就労（3食付き）	70,000円

※ 寮費の中には、食事代、寮費を含みます。

その他アルバイト&就労している方には布団使用料月1,000円、駐車料月1,000円（別途）が掛かります。

短期体験合宿以外の上記希望者は随時受付をしています。（但し、事前面接が必要です）

※ 各コースとも定員になり次第締切ります

・ 保護者のための研修会（1泊2日）とグループカウンセリング（日帰り）

子どもや若者への対応や親としてやらなければいけないこと、子どもの再登校、社会復帰のためにしなければならぬことを集中的に学びます。（年3回程度）18,000円

若者自立塾以外は合宿所として富山県黒部市宇奈月温泉「NPO教育研究所AHEビル」を使用。

◎ 教育研究所伝言板

- ・ 牟田先生のカウンセリング・・・随時予約受付を現在行なっております。（横浜事務所）
富山では宇奈月滞在中に行っています。（要予約）
- ・ 牟田先生の講演・・・・・・・・・・2,3月に横浜・富山で行ないます。
- ・ 牟田先生のグループカウンセリング・・・宇奈月にて2月より三期目を開始いたします。

◎ 継続して寄附を求めています

専用寄附口座 横浜銀行 上永谷支店 店番号 323 口座番号 1442822

名義人 特定非営利活動法人 教育研究所 (寄付) 理事長 牟田 武生

ソフトボールや軟式野球で使うグローブやバットで使わなくなったものが、ございましたら、ご寄附ください。
(送料は負担します)

ボランティア募集中

教科指導の補助出来る方 (英語・数学・国語)

カウンセリングやケースワークの臨床をしたい方。

時間講師募集中、高卒検程度の教科指導できる方。

技術をお持ちの方で、定年退職され、その技術を若者に伝え、若者の自立支援に役立ちたい方

お母さんたちの交流会のお知らせ☆

「毎月5～6人が集まって、お茶を飲みながらおしゃべりに花を咲かせています。共通する悩みを持つもの同士、気軽な気持ちで、息抜きにでも参加して頂ければいいなど

思っています。」 (卒業生の母より)

- ・同時に親の会ミニ図書館を開催。
 - ・会員の方ならどなたでも利用可。
 - ・不登校やひきこもりに関する本や心理の本等が300冊以上あります。
- ぜひご利用下さい。予約の必要はありません。

毎月第4土曜日午後1時から4時頃まで

NPO教育研究所横浜事務所にて

参加希望者は教育研究所までお願いします。



親会からのお知らせ

皆様方の暖かいご支援ありがとうございます。

親の会、支援の会の呼びかけに賛同して頂き心より感謝しております。

教育研究所は当初、10代の不登校の子どもたちのための活動機関でした。

ですが、近年不登校だけでなく、引きこもり、ニート、ネット依存など問題は多様化しております。

それにとまない、牟田先生の活動も年々多岐に渡っております。

そのため、近年の社会問題と照らし合わせた結果、教育研究所の運営費としてではなく、最前線で活動なさっている牟田先生への支援というかたちの方が支援金をより有効に使えるのではないかと考えました。

皆様の貴重な支援金を有効に使わせて頂きたいと思っております。

引き続き会員を募集しておりますので、宜しくお願い致します。

◎ 宇奈月日記の紹介

宇奈月若者自立塾では、自立塾の日常の様子、若者たちの素直な感情などを教育研究所のホームページ上で情報発信しています。宇奈月自立塾寮長、スタッフ、OBたちが、担当して、更新しています。

詳しくは教育研究所HP（ <http://kyoken.org> ）の宇奈月日記をご覧ください。

◎ 最近の宇奈月日記です。

編集後記

本来昨年の12月に発行する予定の教研通信が、一ヶ月近く遅れましたこと、お詫び申し上げます。昨年度の12月の段階で、行政刷新会議の「事業仕分」によっては若者自立塾が事業廃止となる可能性が高く、その結果を踏まえての通信の発行作業でした。結果的には若者自立塾の廃止決定となり、若者の自立支援の枠組みが変更され新しいプログラムの元での支援事業が開始されることになりました。

今回の通信では「廃止」に至るまでの経過と、これからの新しいスキームとしての内容が詳しく掲載されています。宇奈月若者自立塾も、新年度から新しい若者の自立支援としての事業活動に向けてスタッフ一同心を新たにして頑張っていく気持ちで一杯です。今年もよろしく願いいたします。
(事務局)

不景気、雇用不安などが新卒者を襲い、学校出ても就職先がない状態である。厳しい年明けである。労働訓練をしても仕事が見つからない。空前の不景気である。企業は生き残るために、商品の値段を下げるデフレが始まり、今やデフレ・スパイラルの渦に巻き込まれつつある日本経済である。

政治家の「先進国で日本だけが、不景気の二番底に陥る可能性があるかもしれない」と評論家めいた発言が聞こえる。現実社会は厳しい。政治家は今こそ現実を見据え、将来への展望を示して欲しい。国民は先が見えない未来から不安の中で日々暮らす。暮らしは楽ではない。こんな時こそ、軽口を叩き、すぐ訂正するリーダーより、国民を大切にする「不言実行」の政治リーダーが必要だ。それだけでなく、2チャンネルの仮想現実で暮らす者と同じになってしまう。

新たな働き方や生き方を模索する若者が増えてきた。時代が変わろうとする時、そんな若者の力が新たな時代を切り開く原動力になる。過去の経済成長の時代を懐かしみ、新たな生き方をしようとする若者に、過去の価値観に縛られている年寄りや、つい、「何を馬鹿なことを考えているのだ」と説教したり、制止したりしてはならない。時代は変わり、価値観も変わりつつ時代であるかもしれない。

今年の宇奈月は雪が多いぜよ。重たい雪が、先日、駐車場に止めてあった軽自動車のウインドウガラスにひびを入れ、タイヤは雪の重さでパンクしたぜよ。湿気の重たい雪が今日も降るぜよ。しかし、天然温泉は今日も心と身体を温めてくれるぜよ。不景気、雪に負けず、塾生、スタッフ、皆で春を迎えるぜよ！（土佐弁・笑）